

学校課題研究授業③ 7月8日（平成25年度）

学校課題

自分の言葉で考え、伝え合える児童の育成

—基礎的な力をもとに、思考を広げ表現できるようにする取組—

本校では、上記のような学校課題を設定し、研究に取り組んでいます。

本年度は、言語力の基礎となる語彙力を育成し、さらに思考力・表現力を豊かにしていきたいと考えています。そこで、伝え合う力を「共感的な人間関係を土台に、豊かな語彙をもち、適切な言葉を選んで自分の考えを広げたり深めたりする力」ととらえ、言語力の向上をめざして研究を進めていきます。

今回の授業は、今年度重点とした国語の二次（につぐ）の段階でした。単元を貫く言語活動の中でも、三次（さんつぐ）での発表や表現活動に向けて、読み取ったことやお互いの考えを練り合い、広め合うところです。

みんなができるように、がんばれるように仕組みされた活動や支援の中で、楽しく読んだり、考えたり、書いたり、伝え合ったり、発表したりと、子どもたちは、最後まで集中を切らさず学び合いができていました。そして、3つの授業の視点「読む活動での動作化」、「根拠とした部分にラインを引き、ワークシートにまとめる」、「ペア活動と、そのときの共通点・相違点に意識してという助言」について成果もあり、研究を深めることができました。

一方で、何点か学校全体の課題も明らかになりました。

最も重要と思われるのは、「ペア学習」（小グループでの話し合いも含めて）についてです。栃木県総合教育センターの菊地先生からは、「ペア学習」の効果と具体的な段階を教えてくださいました。下野市学校教育課の高橋先生からは、全体で共有する時間も大切にとアドバイスをいただきました。今後、ペア学習は、普通の授業でも、研究授業でも、多く用いられることが想定されます。そのとき、本時のめあてに合致し、意義や必要性があり、しっかり機能する活動になるようにしていかなければなりません。研究として、低・中・高のブロックごとに基本の「型」を考えていくことも検討課題です。

ほかに、「話すこと」ばかりに傾倒せず「聞くこと」の指導にも同じくらい力を注ぐこと、「単元を貫く言語活動」の構想の充実に努めること、授業と関連を図った「読書活動」や国語での「並行読書」の実践をどこで取り入れるか見通しを立てて取り組んでいくことなども課題です。

